事務処理要領様式第１号

浄化槽（現場打）構造関係チェックリスト

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 設置者 | 住　所 |  |
| 氏　名 |  TEL |
| 設置場所の地名地番 |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| チェック項目 | チェック内容 |  設置者記入欄 | 判定欄 |
| １　接地圧 | ６ｅ＝Ｐ／Ａ＜ｆｅ６ｅ：設計用接地圧Ｐ　：基礎に作用する鉛直荷重　　　　　　　　　（基礎自重を含む）Ａ　：基礎の底面積，ｆe：許容地耐力度 | ６e＝(　　)kN/㎡ ＞fe＝(　　)kN/㎡ | 適・否 |
| ２　浮　力 | 総重力＞浮力 （浸水部の体積×1.0） | 総重力 浮力(　　)t＞(　　)t | 適・否 |
| ３　底　盤 |
|  | (1)べた基礎 | 基礎底面は良好に地盤に達している | 地耐力=(　 ) kN/㎡ | 適・否 |
| (2)くい基礎 | ①　杭先端が良好な地盤に達している | Ｎ値=（　　　） |  |
| ②　杭の種類が適当である　（木杭・既成コンクリート杭・その他） | 種類（　　　　　　） | 適・否 |
| ③　杭の支持力が許容範囲内である | １本当支持力＝（　　　）kN/本 | 適・否 |
| ４　ｺﾝｸﾘｰﾄの 強度 | 1. コンクリートの４週圧縮強度は

　　　　　　　　　　　12 N/mm2 以上 | ４週圧縮強度（　　　　）N/mm2 | 適・否 |
| ②　設計基準強度＜４週圧縮強度 ただし、地下外壁の設計強度基準は 18 N/mm2 以上 | 設計基準強度（　　　　）N/mm2 | 適・否 |
| ５　鉄筋の継手及び定着 |
|  | (1)鉄筋末端の折り曲げ | 鉄筋の末端は、かぎ状に折り曲げること。ただし、異形鉄筋の場合は不要 |  | 適・否 |
| (2)継手の重　ね長さ | ①　引張り力が最小の位置　　　　　主筋の径(d)の25倍以上 | ①重ね長さ＝ （　　　　）ｄ | 適・否 |
| ②　上記以外　主筋の径(d)の40倍以上　 | ②重ね長さ＝ （　　　　）ｄ |
| (3)定着長さ | ①　引張応力を受けるもの40ｄ以上②　圧縮応力を受けるもの25ｄ以上 | ①定着長さ=(　)ｄ②　　〃＝(　)ｄ | 適・否 |

|  |
| --- |
| ６ 床版(ｽﾗﾌﾞ) |
|  | (1)ｽﾗﾌﾞ厚さ | スラブの厚さは８cm以上かつ短辺方向の有効張り間長(L)の1/40以上 | ｽﾗﾌﾞ厚=(　　)dL/40=(　　　)cm |  |
| (2)引張鉄筋　の間隔 | 最大曲げﾓｰﾒﾝﾄを受ける引張鉄筋の間隔 | ｱ 短辺方向　20cm以下 | ｲ 長辺方向 50cm以下 | 間隔 | ｱ(　)cmｲ(　)cmｳ3t＝(　)cm |  |
| ｳ かつｽﾗﾌﾞ厚(t)の３倍以下 |
| (3)開口部周　囲の補強筋 | 開口部周囲には、径12cm以上の補強筋を配置する | 補強筋径　（　　　）mm |  |
| ７ 側壁 |
|  | (1)壁の厚さ | 壁の厚さは12cm以上とする | 厚さ=(　　　)cm |  |
| (2)壁の配筋 |  | シングル | 縦 | D( 　)φ ( 　)cm |  |
| 横 | D( 　)φ ( 　)cm |
| ダブル | 縦 | D( 　)φ ( 　)cm |
| 横 | D( 　)φ ( 　)cm |
| (3)開口部周　囲の補強筋 | 開口部周囲には、径12mm以上の補強筋を配置する | 補強筋径　(　　　　)mm |  |
| (4)壁の端部　及び隅角部 | 端部及び隅角部に径12mm以上の縦筋を配置する | 鉄筋径　(　　　　)mm |  |
| ８ 鉄筋かぶり の厚さ | 鉄筋のかぶり厚さは、下記によるｱ　端力壁以外の壁、床 2cm以上ｲ　側壁 3cm以上ｳ　土に接する側壁 4cm以上ｴ　基礎 6cm以上 | ｱ( )cmｲ( )cmｳ( )cmｴ( )cm |  |

|  |
| --- |
| このチェックリスト及び添付図書に記載の事項は、事実に相違ありません。　設　計　者　　　住　　　　所　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　 （　）級建築士（　）登録第　　　号 　　　　　　 （　）建築士事務所（　）登録第　 　号 　　 氏　　　　名　　　　　　　　　　　　　印 |

|  |  |
| --- | --- |
| 総合的所見 |  |

 上記のとおり審査しました。

年　　　月　　　日 建築主事